

すべての子どもに
「話す力」を！

The Power of Speech
for
Every Child!



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



alba edu.

ACTIVITY REPORT

活動報告書

一般社団法人アルバ・エデュ



01

さまざまなステークホルダー による認知拡大

教育行政、財界などにおいて、本活動を知っていただく機会が増えています。
その中で、第3回「話す力を育成する官民合同シンポジウム」を開催し、教科書
会社をはじめ多くの方々にご参加いただきました。



詳細は P.5 に ▶▶▶

02

話す力を高めるアプリ 「SPEAK STAR」 2025 年 8 月にローンチへ

個別最適な学びを支援し、教員の負担も
軽減するため、子どもに寄り添い、発話
を促すツールを開発しています。また、
本取り組みは文部科学省の授業にも採択
され、認知度の向上が進んでいます。



※画面は開発中のものにつき、
実際の仕様とは異なる場合があります。

詳細は P.7 に ▶▶▶

03

英語でイタイコトを



母国語でのしっかりした思考を土台として、
外国語でも表現力が花開くよう、子どもたち
を支援します。

詳細は P.12 に ▶▶▶

alba edu. Activity Report

CONTENTS

● 目次

アルバ・エデュ TOPICS	P.1
アルバ・エデュの理念	P.3
なぜこの活動を始めたのか	P.4
各ステークホルダーへの働きかけ	P.5
学校 & 自治体 教育委員会	P.5
アプリ「SPEAK STAR」について	P.7
大学・教育行政・政財界	P.9
シンポジウムの開催	P.11
パブリケーション	P.12
社会貢献活動	P.13
スポンサー	P.14
メディア掲載実績	P.15
アルバ・エデュについて	P.17
代表紹介 / 団体概要	P.17-18



Vision

すべての子どもに「話す力」を。

Mission

教育現場へのプログラム提供を通じて、
子どもたちの自己効力感を高め、学級内の心理的安全性を向上させる。
そして、「話す力」と「生きる力」を育む仕組みをつくることで、
すべての子どもが自分の意見を伝え、
自信を持って未来を切り拓ける社会を実現する。

Value

自己効力感の向上

自分の考えや思いが相手に伝わり、認められる成功体験を通じて、
「できるかも」という前向きな気持ちを育む。

心理的安全性の確保

クラスを整え、子どもたちが安心して自分の意見を言える場をつくる。

教育の公平性

「話す力」が体系的に教えられていない現状を変え、
出生環境に左右されずに学べる機会を提供する。

自己理解の促進

子どもたちが「イイタイコト」を見つけ、
自分を知り、自分を好きになるプロセスを支援する。

社会との連携

自治体や学校と協力し、誰ひとり取り残さない教育の仕組みをつくる。

子どもたちが、少しでも自分の意見が言いやすくなるように、
少しでも自分を好きになり、希望を持って生きられるように、
少しでもクラス環境が良くなるように。

アルバ・エデュは子どもたちが「イイタイコト」を見つけるために、自己理解を促します。

自分の考えや思いが相手に伝わり、認められるという成功体験が、
「できるかも」という自己効力感へとつながります。

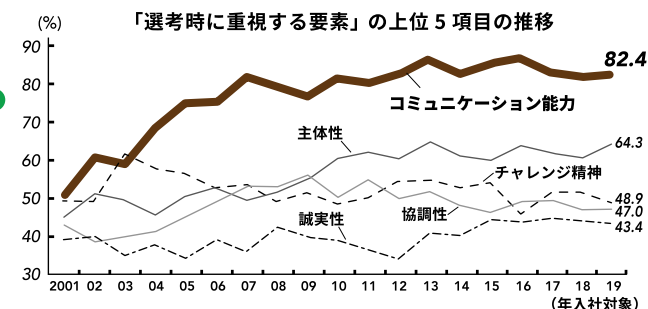
自治体、学校と協力して、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指しています。
「世の中は変えられる、そのためにプレゼンがある」

なぜわたしたちは この活動を始めたのか？

社会で重視される力

経団連が企業に対して行った調査では、「採用の選考時に重視する力」として、コミュニケーション能力が一貫して最も多く挙げられています(※)。また、その傾向は大学入試などにも顕著に表れています。

※日本経団連「2018年度 新卒採用に関するアンケート」調査結果より

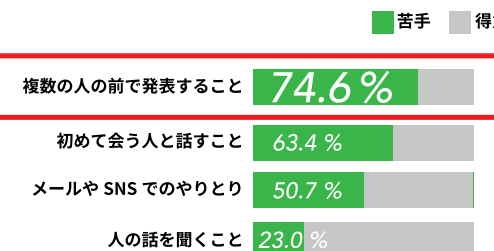


コミュニケーション得意度

日本人は人の話を聞くのは得意な反面、人前で話すのは苦手です。

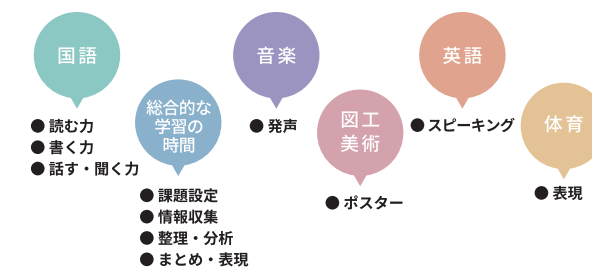
※株式会社 JTB コミュニケーションデザイン 調査
「コミュニケーションへの苦手意識」

対象：国内の男女18歳以上の大学生・会社員・主婦・リタイア (n=2,060)



教科ごとに分散する学習内容

現状の教育課程では、自己表現力を高めるための要素が複数の教科や単元に分散しており、体系的に話す力を高めるのが難しい状況にあります



現状

現在、「話す力」は育成環境に左右されやすい状況にあります。すべての子どもが公教育の中で身につけられるよう、各種ステークホルダーへの働きかけを行っています。



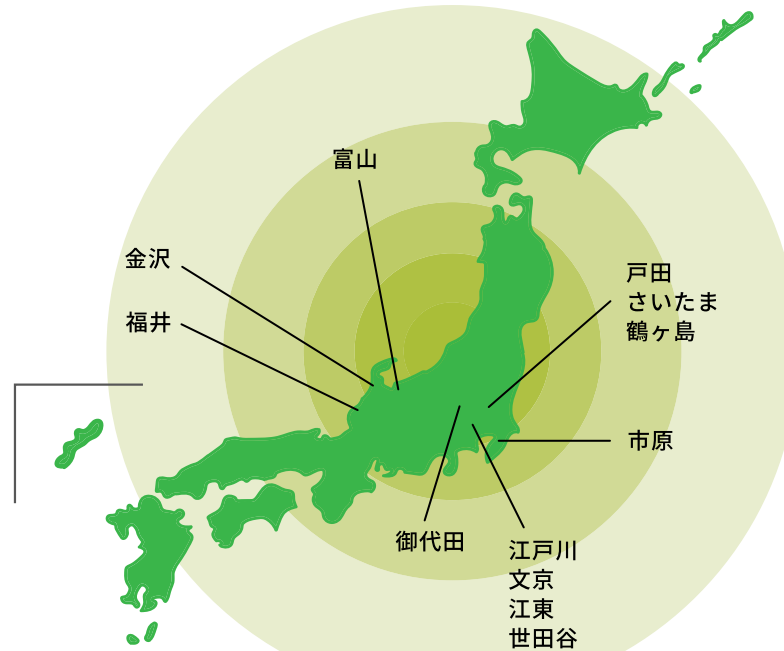
アルバ・エデュの
教育メソッド

見せる
伝える
考える



学校 & 自治体 教育委員会

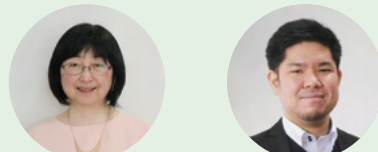
1 都 12 市区町の自治体との取り組みを実現



Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

鶴ヶ島市 富山市 金沢市 戸田市
さいたま市 御代田町 文京区
福井市 江戸川区 市原市 東京都
江東区 世田谷区

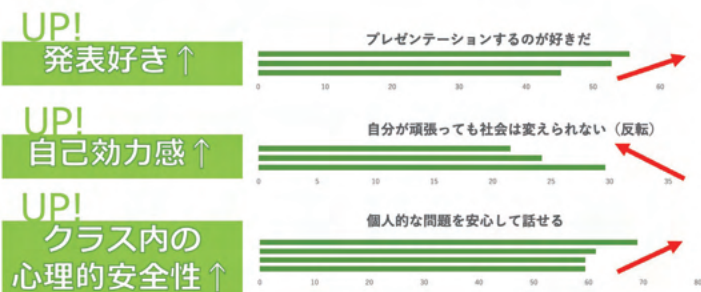
効果検証監修



福岡教育大学・山元教授 山梨大学・小野田准教授

日本財団からは、2022-2024 年度で 10 自治体へのプログラム導入に関する助成をいただきました（うち、9 自治体で効果検証実施）。子どもたちはもちろん、査読論文になるなど、多くの関係者に活動の有効性を示す結果となりました。

子どもたちの変化



（グラフ下から）プログラム実施前、事後①、事後②、発表後（n=106）

査読論文



実証・教員アンケート（8自治体）

アルバ・エデュが実施する教員研修の受講者を対象に、Google フォームを用いて受講後にアンケートを実施。各研修の実施時期、回答者数、実施時期は以下のとおり。

子どもの話す力を重視したいか？



研修は
受講者に
好評

Voices
受講者の声

自分の考えや思いを語るという点が、今回の研修で改めて大切だと感じました。調べたことをただ発表するだけではいけないと思いました。思いをもってどう表現するか、そこに重点をおいて今後の授業に取り組んでいきたいです。

自分を主語にして話すということの大切さを感じました。また、考える、伝える、見せるの具体的な方法を知ることができて大変勉強になりました。

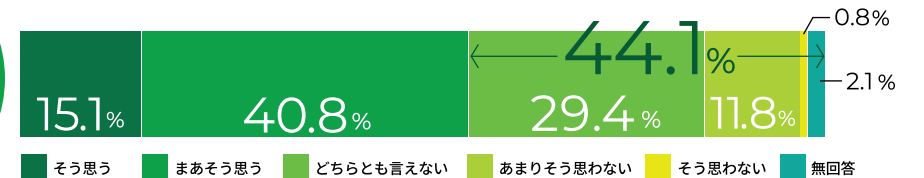
自己効力感を育むことが大切であると感じた。声の大きさや発声練習や発声のコツ、声帯を鍛えるなどの工夫で変わることがわかった。

知識を広げるのは AI でできる。そこから自分で選んで伝えて深めあってより良いものにしていくためにプレゼンがあるという言葉がひびきました。

しかし…

積極的に実施
できているのは
6割にとどまる

44%の先生が積極的に実践できていない



調査から見てきた「話す授業」の課題

子ども

- 考えを広げ・深められない
- 考えを整理できない

教員

- 学級全員の支援が必要
- カタチが残らない

解決方法 = 生成AIを利用したアプリの開発



アルバ・エデュのプログラム

生成AIの組み込み



アプリの開発！

- 主体的・対話的で深い学び
- 探究的な学び

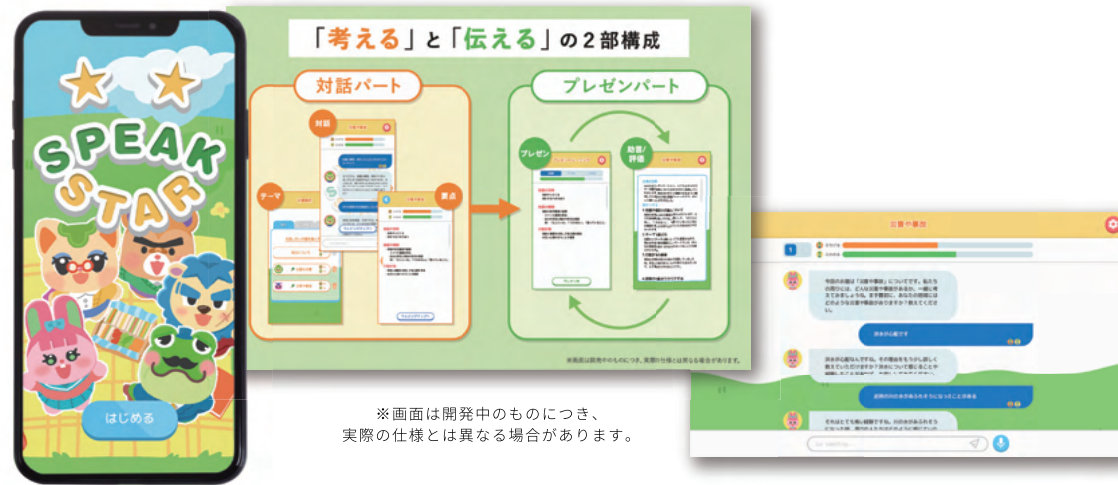
を実現！

※詳細は次ページをご参照ください



アプリ「SPEAK STAR」について

一人一台端末を活用し、「話す力」を身につけるための
生成 AI を用いた対話型教育支援ツール「SPEAK STAR」を開発。
子どもが話す内容を考える際に、
思考を広げ、深めるための声かけを教員に代わり行います。



アプリとの対話でテーマに関することを広げて、その後、プレゼンのトレーニングを実施。
子どもが自ら学ぶ後押しに。



文部科学省の事業にも採択され、
のべ約 **66,000人**
(※2025年3月時点)

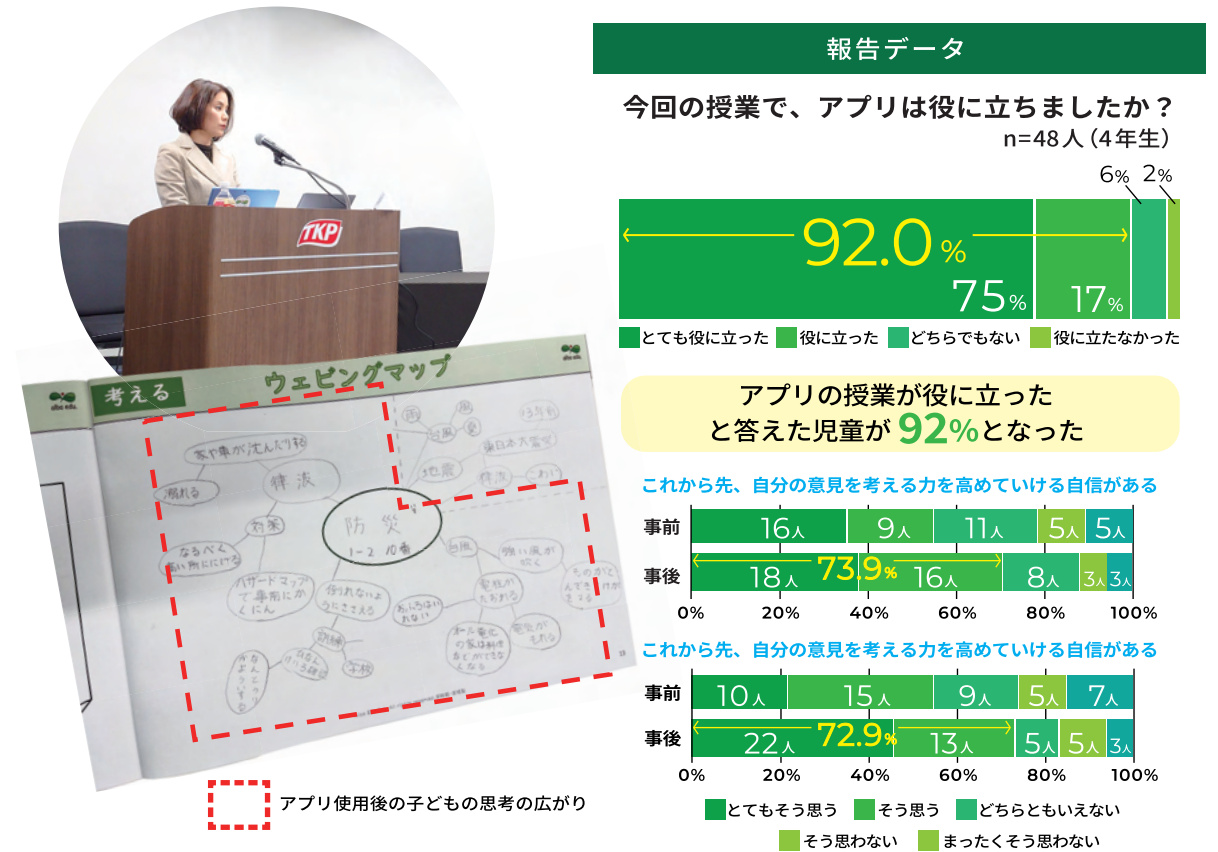
の教員研修とモデル授業を行い、
アプリの提供もしています。

今後は
外国語のスピーキング能力の
向上も支えるべく、
アプリの開発を進めてまいります。

アプリの導入効果

2025年2月13日(木)、文部科学省主催の
令和6年度「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」成果報告会
に参加しました。

成果報告会では、アプリを活用した実証事業の成果として、アプリが児童の学習に役立ち、
「話す力」の向上に貢献したことを報告。
また、全国普及や導入の展望について、事業推進委員と議論しました。



事業推進委員の大学教授からは
「AI と組み合わせた授業の質が高く、
実証でのフィードバックを反映した開発も迅速で素晴らしい」
との評価をいただきました。

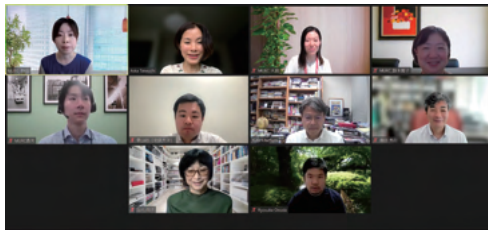
さらに、英語対応や世界展開にも期待の声が寄せられ、
他事業者からも好意的な反応を得ました。

大学・教育行政・政財界

教科書・研究者

教科書・副教材等の教材作成や監修を通じ、話す授業が教育現場で円滑に行われるよう各社と協働しています。学識経験者にはアドバイザーボードや実証実験にてご知見をいただいています。

東京書籍 全従業員向け講演



第1回アドバイザーボード

関西大学 黒上教授、中京大学 泰山教授、東京大学 北村教授ほか

正進社 面接ガイド



教育行政

行政当局を始めとする教育業界の関係者に協力し、国民の大多数が人前で話すのが苦手という社会課題を解決するために各種活動に取り組んでいます。



文部科学省授業視察

自由民主党文部科学部会登壇



教職員支援機構（NITS）研修



官・財・民

官・財

行政当局を始めとする教育業界の関係者に協力し、国民の大多数が人前で話すのが苦手という社会課題を解決するために各種活動に取り組んでいます。また「スポーツ × プレゼン」の取り組みも多数行っており、ブラインドサッカー代表選手にも話す力の研修を実施しています。



航空自衛隊研修

人事院・国家公務員集合研修



経済同友会 講演



FC今治里山校にて
岡田元監督と対談



企業

コミュニケーション基礎など人事研修の提供や CSR 機会（企業コンテンツを学校の授業へ導入する際のお手伝い、従業員参画の場の提供、スポンサー受入）等、企業と各種連携をしています。

▶詳しくは P.14 をご参照ください

みずほ銀行 研修



個人



出版やメディア露出、保護者向け講演会を通じて、広くメッセージを発信しています。また、学生や社会人向けのプレゼン講座や、子どもへの声かけを学ぶファシリテーション講座など、個人のリスキングに対応したプログラムを提供しています。



シンポジウムの開催

「話す力」と「生成 AI 活用」をテーマにしたシンポジウム主催。
各界の有識者にご参加いただきました。



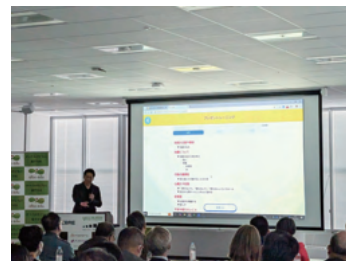
パネリストの皆様からいただいたコメント

エール株式会社 取締役 篠田 真貴子 様 コミュニケーションがキャッチボールに例えられることから分かるように、「話す力」と「聴く力」はセット	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長 武藤 久慶 様 次期学習指導要領では、日本人の弱点とされてきた、「話す力」や「聴く力」に作用するような見直しを行いたい	関西学院大学 総合政策学部 特別客員教授 小西 美穂 様 褒めてほしいという学生には、個別に評価してくれるツールであるという点で、生成 AI は役立つだろう	株式会社 MEMORY LAB 代表取締役 CEO 畑瀬 研斗 様 アメリカの大学では発言が出席や評価に直結し、学生の主体性が常に問われる点で、日本の大学との大きな違いとして印象的でした
---	---	---	--

教育業界に革新を！プレゼン力を高めるアプリ「SPEAK STAR」

当日は、株式会社フィラメントと共同開発中の生成 AI を活用したアプリ「**SPEAK STAR**」を発表。
多くの期待の声が寄せられました！

▶詳しくは P.7 をご参照ください



Voices 参加者の声

生成 AI の教育活用が進むことで、
どんなことがあるかの事例を知ることができた。
小中高大、各学齢での具体的な話が参考になった。

教育・話す力における AI の存在を
知らなかったのが、
利用してみたいと思った。

Publications & Communications

出版・監修



主に教育に関心のある方向けに出版された『すべての子どもに「話す力」を』に加え、Z 会から『思いを伝える「話す力」』を子ども向けに、『話す力』で未来をつくる』が保護者向けに出版されました。



東研特別研究報告『「話す力」を育む実践プログラム』（東京書籍 東京教育研究所）、第 2 弾となる『「話す力」を育むホライズン・メソッド』の監修を行いました。



報告書はこちら

“大人になって読み返したくなる”
をコンセプトにした『面接ガイド』（正進社）の監修を担当しました。

学んで遊べる「エレピカード®」の小学生版を販売



エレピとは、エレベーターピッチの略で、「エレベーターで出会った人に目的階につくまでの数十秒のうちに自分のことを印象づけるためのショートトーク」のことをいいます。このような「とっさのチャンス」をつかむために開発されたのが、このエレピカード®です。楽しみながら即興プレゼンを学ぶことができます。



アルバ・エデュの社会貢献活動

日本財団が運営する第三の居場所の児童に対し、
オンラインでの授業やプレゼン大会を提供したり

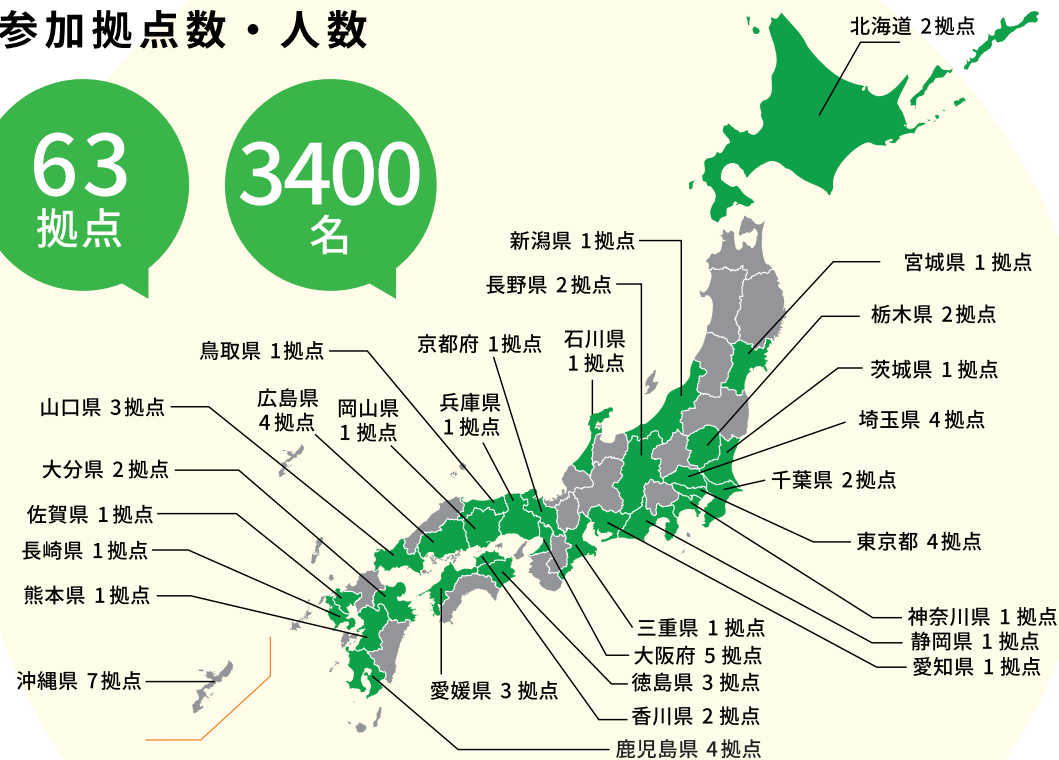
実際に子どもたちと企業に訪問したりしました。

当初『体験格差をなくしたい!』という思いで開始した取り組みでしたが、
実施を重ね、各地で実を結んでいます。

参加拠点数・人数

63
拠点

3400
名



大系タイムスでの紹介記事



四国新聞での紹介記事

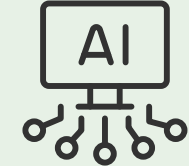


プレゼン大会の様子

スポンサー



アルバ・エデュのプログラム



生成 AI の組み込み

教育の課題解決へ向け、
私たちの取り組みを数多くの皆様にご支援いただいております。

CBRE

JPUNIVERSE

Filament

nakashimaTO

スポンサー様より

このプログラムを通じて、より多くの子どもたちが、人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーション力を身につけ、世界で活躍できる人材として成長することを期待しています。

企業の教育プログラム作り・
イベント共催・オンライン授業サポート
も多数行ってきました



オリックス銀行

オンライン授業



印刷博物館
PRINTING MUSEUM, TOKYO

オンライン授業



DM三井製糖株式会社

オンライン授業・大学での講義



不二家

オンライン授業

- ・ NEC ネットズエスアイ株式会社
- ・ 日本製鉄株式会社
- ・ 株式会社イトーキ
- ・ 株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
- ・ 株式会社小学館

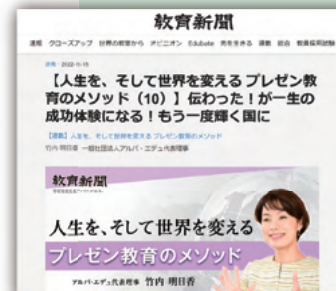
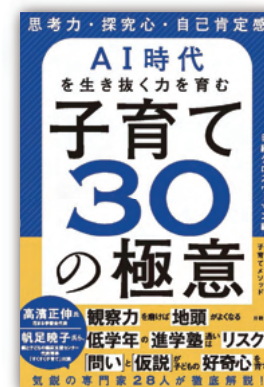
- ・ PwC コンサルティング合同会社
- ・ サイボウズ株式会社
- ・ クラシエ株式会社
- ・ 東京ケーブルネットワーク株式会社
- ほか多数



アルバ・エデュのメディア掲載実績

教育系メディアからの取材、寄稿依頼が増えたことに加え、テレビや経済誌にも取り上げていただくことができました。

配信月	内容
2023/05	NHK WEB 子どもたちに「プレゼン」教育を 元銀行員の全国出前授業
2023/05	TBS ラジオ アシタノカレッジ
2023/05	日経ビジネス電子版 社外取締役と戦略コンサルタントが見る日本企業の課題とこれから
2023/06	日経クロスウーマン DUAL 「はい、論破」周囲を言い負かそうとする子への対応は
2023/07	日経クロスウーマン 思考力・探究心・自己肯定感 AI 時代を生き抜く力を育む 子育て 30 の極意
2023/08	日経新聞 「はい論破」と言う子への対応は共感誘う対話の練習を
2023/08	地元ケーブルテレビ 安城市 出前授業
2023/09	テレビ朝日 グッド！モーニング きょう注目 NEWS 増加・いじめや孤立のおそれ「はい論破！」マウント小学生
2023/10	日経クロスウーマン DUAL 生涯役立つ「表現力・対話力」家庭でお金をかけず楽しく磨く
2023/10	小学館 みんなの教育技術 子供たちに「話す力」を育む指導とは？
2023/10	週刊東洋経済 AI 時代の子育ての教科書
2023/12 ～2024/01	PRESIDENT ONLINE 第1回 子供たちに「昭和の授業」を受けさせたくない…息子の授業参観で痛感した「日本の教育」の衝撃的なレベル 第2回 管理職のほとんどが「中高年男性」では変わらない…日本人の「プレゼン下手」克服のために必要な3つの課題 第3回 日本と米国の「国語教科書」を比較すればわかる…日本人が「世界最高水準の学力」を生かせない根本原因
2024/01	PRESIDENT 「理由は3つ」一辺倒からの卒業！心動かすストーリーテリングの技術
2024/02	教育新聞 官民挙げて話す力の育成を 教育行政・企業関係者がシンガ
2024/02	教育出版 Educo No.63 連載第1回「話す」は生きる力～子どもたちの未来を変えるプログラム～
2024/02	週間教育資料 1737号 第1回「すべての子ども」に話す力を
2024/03	週間教育資料 連載2回目、3回目
2024/04	教育出版 Educo No.64 連載第2回「話す」は生きる力～子どもたちの未来を変えるプログラム～
2024/05	教育出版 Educo No.65 連載第3回「話す」は生きる力～子どもたちの未来を変えるプログラム～
2024/05	四谷大塚 DREAM NAVI 「発信力」を身につけよう！
2024/07	婦人公論.jp AI 時代に通用する賢さとは？子どもが人前で話せるようになる＜3つの力＞の鍛え方
2024/08	てつなぎ プレゼンアドバイザーが教える！「挨拶から育てる話す力」
2024/08	アデック知力育成教室 「プレゼンテーション力」を高めるために、幼児期からできる取り組みとは？
2024/10	ダイヤモンドオンライン 連載1回目、2回目、3回目（全3回）
2024/12	ベネッセ 小6本講座 10-12月号テキスト
2024/12	日経クロストrend 唐木明子の新イノベーション解体新書 第7回 なぜ元FFプロデューサーが教育分野に？アプリで伸ばす「話す力」
2025/02	テレ朝 NEWS 生成AI活用し子どもの「話す力」育成へ 官民合同シンポジウム開催
2025/03	小学館 HugKum（はぐくむ）日本の子どもたちは人前で話すのが苦手…発想力、表現力が求められるAI時代を乗り切れる？ 「プレゼンテーション」を教育現場で教える竹内明日香さんに聞いた
2025/04	BS朝日 Fresh Faces ～アタラシイヒト～
2025/04	読売新聞 関心アリ！



取材は随時受け付けております。
以下までご連絡ください

albapr@alba-partners.com

アルバ・エデュについて

ここまでお読みくださり、ありがとうございました！
これからもアルバ・エデュをよろしく願いいたします。

代表紹介

一般社団法人 アルバ・エデュ 代表

竹内 明日香

Aska Takeuchi



国内外の企業のプレゼンテーションを支援する傍ら、2014 年に子どもの「話す力」の向上を目指す一般社団法人アルバ・エデュを設立。同団体では、6 万人を超える受講者に話す力を高めるための研修、講演を行っているほか、一人一台端末で使える AI 組込みの対話型アプリの学校への提供を行っている。東京大学法学部卒業。公立小元 PTA 会長。二男一女の母。TOPPAN ホールディングス等、複数の企業で社外取締役を務める。著書に『すべての子どもに「話す力」を』（英治出版）ほか

団体概要

名称	一般社団法人アルバ・エデュ (Alba Edu Inc.)
設立年月日	2014 年 12 月 2 日
頭問・理事	顧問：早川 三根夫（元中央教育審議会委員、岐阜市前教育長） 理事：干場 弓子（ディスカヴァー・トゥエンティワン元社長） 田久保 善彦（グロービス経営大学院副学長）、佐々木 繁範（スピーチライター） 吉田 大助（日本協創投資社長）、保科 真智子（裏千家茶道家）
監事	安東 敏志（税理士）
所在地	〒112-0013 東京都文京区音羽 1-17-11 花和ビル 308 号
連絡先	MAIL：info2@alba-partners.com
ウェブサイト	www.alba-edu.org/
お問い合わせ	右記の QR コードよりお問い合わせください



アルバ・エデュの沿革

2009 年	(株) アルバ・パートナーズ設立 企業研修や広報サポートを開始 面談先は国内外 900 社 顧客がプレゼンの世界大会にて国内企業初の金賞受賞
2014 年	子ども向けプレゼンワークショップを開始 一般社団法人アルバ・エデュを設立
2015 年	初の出前授業 経済産業省キャリア教育アワード優秀賞
2017 年	東京都教育庁より都立中高向け「プレゼン × キャリア教育」の授業を受託
2018 年	東京都小中向けオリンピック・パラリンピック教育授業受託 文京区プレゼンテーション能力向上プログラム受託
2019 年	文京区のプレゼンカリキュラム策定（幼小中）
2020 年	オンラインおうち学校開校 市原市 GIGA スクール構想アドバイザー委嘱 JACEVO 助成金採択
2021 年	日本財団助成金採択（～2024 年）
2022 年	富山県富山市教育委員会「話す力を高めるプレゼン教育に関する連携協定」
2023 年	金沢市次期金沢型学校教育モデル構築会議委員 査読論文「社会への関与を志向したプレゼンテーション授業が学習者の動機づけに与える影響」が教育工学会誌に掲載
2024 年	SPEAK STAR が令和 6 年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進（最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業）に採択
2025 年	第 3 回官民合同シンポジウムを開催し SPEAK STAR のリリースを発表

● 講演実績：教職員支援機構・自由民主党文部科学部会・人事院・経済同友会・東京大学ほか多数

ご寄付・ご支援のお願い



あなたの支援が未来を変える！

アルバ・エデュ サポーター募集！！

アルバ・エデュでは継続的に活動を支援してくださるサポーターを絶賛募集中！
あなたの寄付でプログラムの全国展開が支えられます。
寄付サイト「シンカブル」に登録し、継続的なご支援をお願いします！

選べる
4つのコース

¥1,000
1ヵ月

¥3,000
1ヵ月

¥5,000
1ヵ月

¥10,000
1ヵ月

ご登録はこちらから

